

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	総合福祉ひまわり	代表者	荻須康正	法人・事業所の特徴	地域密着施設として、多治見市内、市之倉、諏訪住民、高齢者の昔馴染みの生活や、人間関係を大切に利用者利用者様一人ひとりの個別性に密着した個別ケアを行っています。利用者様ご家族の生活リズムに合わせて安心して毎日過ごせるようにご家族と連携を密にとっている。又レクも個別を重視し利用者様がいきいきと生活でき楽しみが増えるように支援している。ご家族の今までの生活が保てるように、ご家族に合わせて送迎時間は自由に組み合わせて行き早朝夜遅くはご家族での送迎も受け入れている。隣にある、幼稚園との交流が季節の行事に合わせてあり利用者様に大変喜ばれている。管理者、職員は常に利用者の立場になり思いを共有し、個別性を大切にした暮らしを提供している。					
事業所名	市之倉ひまわり 小規模多機能	管理者	小林日出世							

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	5人	人	人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	1. 利用者を定員の半分の人数に近づける。 2. 就業環境の整備を図る。	現在増減を繰り返し6名。	経営者は積極的に地域に出向き情報収集にあたる必要がある。その中から新しい利用者の開拓も出来るのではと考える。	経営者を含め職員全員で関わっていく。 職員の増員（パートを含む）
B. 事業所のしつらえ・環境			立地条件、自然環境等他の事業者と比べても見劣りしない。さらに安価なグループホーム等（例）対応できないか。	総合福祉ひまわりの入り口に各事業所、相談窓口の看板を設置する。チラシ、ホームページに相談窓口の表示をする。
C. 事業所と地域のかかわり			事業所が相談しやすい場所になっているかどうかを重点におき継続すべきである。日曜喫茶を拡大し相談窓口とする。	各利用者様の地域の社会資源、民生委員の方を調べて記録し適宜相談、利用していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			生活支援サービス、社会福祉法人制度改革等、行政の急激な変化がある。「注視して」変化に対応すべきである。日曜喫茶の再開を望む。	日曜喫茶の再開。職員の増員で経営者、職員の研修、外にむけての動きを確保する。来年を目途に名前とメニュー（内容）を決めて開催する。（予防、を中心にセミナー形式で）

E. 運営推進会議を活かした取組み			<p>1、事例研究、検討を事業者から教えてもらう場にする。</p> <p>2、事業者として将来展望、長期経営計画が見えてこない。又経営状況も同じ。</p>	利用者様の支援の中で参考になる事例研究等、発表していく。隨時、経営者から経営状況、将来展望、長期経営計画を示す。
F. 事業所の防災・災害対策			火災訓練は年2回行っているが、自然災害時（送迎時を含め）の対応策。家具転倒防止策を考えているかどうか。	自然災害時のマニュアルの作成（6か月後） 火災時のマニュアルは以前より作成し確認している。